

ニューエントリー&バージョンアップ!

もっと、つながりひろがる

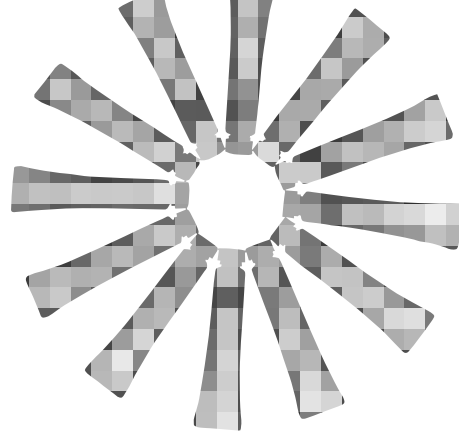
協働のまちづくりを推進するため、昨年から実施している「つながりひろがる地域づくり事業」。本年度は5月末現在で49団体の交付が決まりました。この制度の概要と各団体の取り組みを紹介します。

協働と交流はぐくむ

市内では、地域課題に取り組むボランティア団体など、市民活動が活発に行われています。これらの活動は、行政の手の届かない、きめ細やかな公共サービスに対応できるばかりでなく、地域内のコミュニケーションを活性化させることも期待できます。

その一方で、これらの活動は財政的なサポートを必要としている場合が少なくありません。市は昨年度、「つながりひろがる地域づくり事業補助金」を新設し、これらの活動を支援してきました。

昨年度、追加募集を含め、この補助金を活用したのは57団体で、スポーツや文化活動を通じて地域交流、食育の取り組み、環境保全、防犯活動など、それぞれの地域課題に取り組みました。本年度は5月末現在で、49団体、総額364万3,000円の交付が決まりました。市民の力による活動が、市民を結びつけ、さらに協働の輪が広がっています。



合

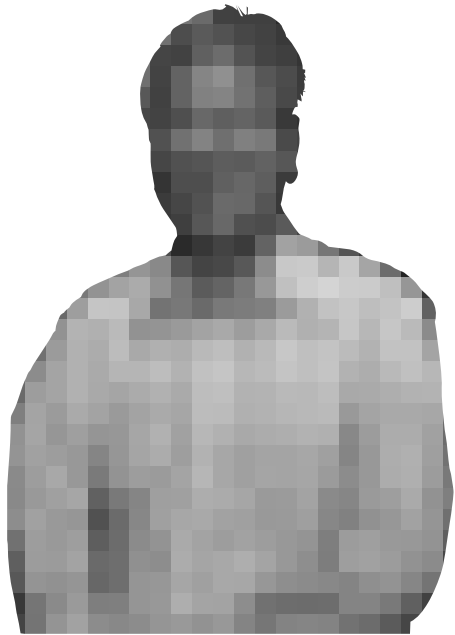
併により地域規模が拡大した一方、これまでの地域コミュニケーションをさらに活性化させることが必要とされています。

三郷郷土研究会は、三郷村誌編集委員会の委員が中心となり、昨年から積極的な活動を展開。65人の会員が7つのグループに分かれ、三郷の自然と歴史・文化の調査研究を行っています。今回の補助金で資金面を補い、活動のさらなる充実を図ります。「村誌を作った終わりというのではなく、これをもとに自

分たちの力で確かめ、深めたい」と話すのは、同会代表の宮澤正昭さん。

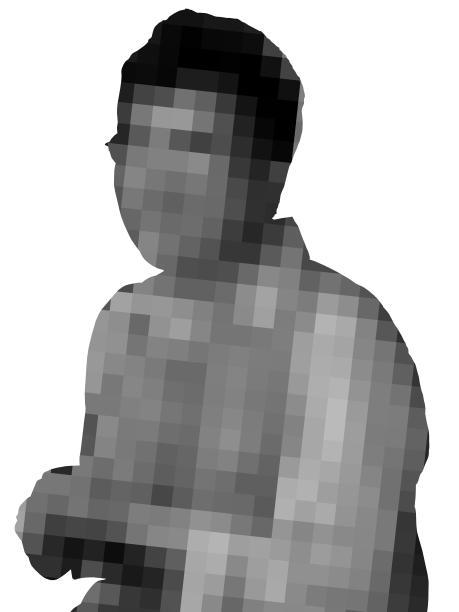
「自分たちが暮らす地域を知ること、地域を大切にすることにもつながる」と考えています。さらに「研究自体は一人でもできるかも知れない。しかし、仲間とその場を共有し、地域の魅力を確かめ合うことは喜びを分かち合うことにもなる」と語ります。地域の豊かさを確認し、住民を結びつける活動が、さらに深まろうとしています。

地域の魅力、確かめ合う



三郷郷土研究会 代表者
宮澤 正昭さん(三郷明盛)

サイエンス
親子あそび塾 菜園'Sキッズ事業 代表者
赤羽 民子さん(豊科南穂高)



自然の中でこそできる体験を親子で

豊科高家にある託児所「チャイルドケアルーム育(そだち)」は、今回の補助金を活用して「親子あそび塾菜園'Sキッズ」を主催します。この事業では、乳幼児から小学校低学年の子どもたちとその保護者を対象に、畑作りから収穫までを体験する野菜づくりや、地域を散策しながらのウォーキングなど、屋外を中心に親子で楽しむ場を提供します。

見ができるのでは」と話すのは、同所ホーム長の赤羽民子さん。「自然に恵まれた今の環境を生かして、子どもたちがいろんな経験ができる機会を提供できないかと日々考えていました。この補助金の話を聞き、その思いをようやく実現できる、と申請を決めました」といいます。今回の事業では、畑を提供してもらったり、畝作りを手伝ってもらったりと、地域の皆さんからも協力を得ています。赤羽さんは「地域の皆さんとともに作り上げる活動にしていければ」と、その意気込みを話してくれました。

49団体が取り組みます

本年度の取り組みを分野別にみると、文化・スポーツの分野が19件ともっとも多く、次いで地域づくりが11件、福祉・健康が9件、環境が6件、教育が3件、国際交流が1件となっています。

を拡大するなどの目的で、昨年からの継続事業となるのは15件です。各団体の活動は、本年度中に行われ、来年2月ごろには、広く市民に公開する事業発表会を行います。この発表会は、地域課題を市民の間で共有化させることや、各活動を多くの市民に理解してもらい、説明責任が果たされることも大きな狙いとなります。本年度も、各団体の活動に、ぜひご注目ください。

追加募集

まだ、間に合います

今年4月に行った第1次募集の交付決定額が、予算額に対して余裕があるため、追加募集を行うことになりました。

この補助の活用を希望する団体は、7月31日(木)までに応募してください。

募集要領や申請書は、各総合支所地域支援課まちづくり推進係窓口のほか、市ホームページにも掲載してありますのでご利用ください。

各総合支所地域支援課まちづくり推進係またはまちづくり推進課
(TEL71・2000 FAX72・1223)

